

Dono da Foxconn falou mal do Brasil (OESP,14/04/2011)

フォックスコンのオーナーがブラジルの悪口を言った

9月、テリー・ゴウは賃金が高過ぎ、人々は「サッカー」という言葉を聞くと仕事を止めると言った。

ある人間の意見が7カ月で変わり得るだろうか？一火曜日、ジルマ・ロウセフ大統領はフォックスコン（Foxconn、富士康国際）の会長であるテリー・ゴウ氏（Terry Gou、郭台銘）との会合後、この台湾企業がブラジルに120億ドルを投資し、10万人の雇用を創出する液晶画面製造工場を建設することを検討していると発表した。

ブラジル政府により発表された計画に映し出されたゴウ氏の伯国への熱狂は、昨年9月にこの台湾の億万長者がウォール・ストリート・ジャーナルに言ったことと著しい対照を成している。同氏がブラジルについて話したインタビューの一部が、同紙のブログであるChina Real Time Reportに記載されてある。

インタビューの中で、ゴウ氏はブラジル人の賃金が「とても高い」と発言し、ブログによると、ブラジルが中国の工業力に対抗できるという考えを嘲笑し、「ブラジル人は『サッカー』という言葉を知っただけで仕事を止める。それにパーティの雰囲気になってしまうこともある。異常だ」と不平を言った。

彼はブラジルの水力発電と鉱物生産の潜在性を称賛したが、生産状況は国内市場に対応する場合のみに適切であると言った。「もし米国へ輸出したいなら、ブラジルから送るためにより多くの時間とお金をかけて付加価値を付ける必要がある」――。

政府の発表はブラジル産業界に懐疑をもって受け止められた。当のフォックスコンは投資について認めていない。

同社は声明で「『市場のある場所にいる』という戦略に沿って、我々は長い期間対伯投資の機会について検討してきた」と発表した。「現時点で我々はこの重要な市場での機会を探る過程にあり、伯国の投資における一般的な投資環境についての実態の分析を行っている」――。

ブラジル政府により公表された数字について、同社は「いかなる投資計画の決定に関しても、我々の経営審議会と当局による承認を経た後にのみ発表するというのが我々の方針である」と話している。

不信

ブラジル政府により発表された数字の問題は、伯国電子機器市場の規模をはるかに超えているところである。ブラジルで同部門全体の雇用は17万5千人だ。フォックスコンは2万人の技術者を含む10万人の従業員と契約するつもりであるとなっている。この人数を埋めるための十分に訓練された人材は存在しない。

120億ドルという値段はブラジルが10年以上誘致を試みて成功していない半導体工場4つ分にあたる。一つの完全な液晶画面工場には、半導体チップ工場並みの投資が必要とされる。

ブラジルにすでに進出している企業の不安は、中国製品の流入による国内産業を守るために、この投資によるダメージに利用されるのではないかということだ。台湾の企業ではあるが、世界最大の電子機器産業であるフォックスコンの主要な生産施設は中国にある。

ブラジルで電子機器部門は、2010年に275億ドルに達した貿易赤字補てんのために輸入関税の引き上げを支持している。ある工業界関係者が恐れるように、今回の投資の発表は、中国製品に対するセーフガードを妨げ可能性がある。

危機

同社の最近の歴史には、中国工場での従業員自殺によって引き起こされた危機がある。2007年以来、フォックスコンの17人の被雇用者が会社ビルの窓から飛び降り自殺している。これにより同社では自社ビルの回りに防護網を設置している。

(記者：Renato Cruz)

Imagem ruim em direitos humanos(OESP,14/04/2011)

人権についての悪いイメージ

フォックスコンはインターネット上の投票で人権と環境に関して最も悪い会社6社の一つとみなされている。投票はNGO団体の **Berne Declaration** と **Greenpeace** が実施したもので、その結果は1月のスイス・ダボスの世界経済フォーラムで紹介された。フォックスコンは4668票を獲得し、リストの5番目。1位は **Neste Oil** (1万7385票)、その後には **BP** (1万3千)、**Philip Morris** (8052)、**Anglo Gold Ashanti** (6千) が続く。6番目は **Axpo** (4225) となっている。

Governo de Sao Paulo confirma negociacao(OESP,14/04/2011)

サンパウロ州政府、交渉を認める

Tatiana Favaro/Campinas

Jose Maria Tomazela

Sorocaba

サンパウロ州投資・競争力促進機構 (Investe Sao Paulo) は先日の公報で、フォックスコンの新工場の州内への誘致を1年前から交渉していることを明らかにした。

「同社と交わした協定に記載された守秘条項のため、Investe Sao Paulo は誘致の場所、生産、日程、価格、雇用の数といった情報については交渉が具体化してから明らかにすることができる」と同機構はコメントしている。

サンパウロ州内陸部のジュンジアイ、インダイアトゥーバ、ソロカバがフォックスコンの誘致を競っている。1月には同社の代理人がジュンジアイ市内で、3番目の工場の建設が可能な土地を選定するのを手伝ってもらうため同市役所を訪れた。

既存の2工場ではすでにソニーとHPの製品が生産されている。政治家が主導して同社と不動産分野の専門家との接触を仲介している。

舞台裏では投資受け入れに向けた努力と期待があるのは明白だ。たとえ市が同社の選定前に明らかにするつもりがなくとも、幕内ではすでに税務上の争いや市、州、連邦のどのタイプの免税をメーカーが受けられるのかでかまびすしい。

他に台湾企業の工場があるインダイアトゥーバも投資を巡る争いに入っている。レイナルド・ノゲイラ市長 (PDT) は昨日、彼の州議としての任期中 (2009年に市長に就任するまで) にフォックスコンの社長と土地調査のため接触を持ったと語った。

サンパウロ市から92キロメートルにあるソロカバ市の名も挙がっている。ビートル・リップ市長 (PSDB) は、今も建設が続いているトヨタ組み立て工場の工業団地の横にラテンアメリカ最大の工業技術地区を同市に設けるため、工場誘致合戦に参加するのにふさわしいと話した。

(協力者 : Cleide Silva)

Calma com a festa na China(OESP,14/04/2011)

Alberto Tamer

中国でのお祭り騒ぎに冷静さを

アルベルト・タメル

ブラジルと中国の貿易関係には喜びがある。あらゆる分野での投資と工業製品の輸入の約束、エンブラエルの飛行機の購入だけで10億ドルだ。世界最大の電機メーカー、フォックスコンの腕白な会長、テリー・ゴウは大統領に対し、言いつくろことなく、同社が120億ドルをブラジルでの工場建設に投資することを伝えた。それにとどまらず、10万人の労働者、うち2万人は技術者、と契約すると信じており、仮想の街を創造すると語った。ブラジルのすべての電子機器産業が今日雇用しているのが17万8千人であるというのに——。くだらない話だ。誰も信じないが、この空想的な発表が新聞の見出しになった。

北京で発表され、約束された全てを合わせると、中国の新しい投資（フォックスコンは台湾の会社だが工場は中国など多くの国にある）は130億ドルに達する。それにまだあるのだ——。

フォックスコンは労働者が自殺したあの企業だということを思い出すのがいいだろう。労働条件の厳しさのため、工場の最上階から身を投げたのだ。その後、賃金を倍に引き上げ、「不幸を遠ざける」ため仏教の僧侶を雇った。ここでは誰を雇うのだろうか？

金額が大きすぎて中央銀行はまた大金のドルの管理をせざるを得なくなる。しかし心配する必要はない。なぜならこれらすべては単なる「約束」だからだ。フォックスコンの120億ドルは30億ドルを超えることはないに違いない。エンブラエルの飛行機の件と同様に、現在を信じるために過去を見る必要がある。

とても悲しい歴史

このブラジル企業（エンブラエル）は中国へ行き、国営企業 AVIC（中国航空工業集团公司）（国営ではないと言う人もいるが、実はそうなのだ）と結びついた。社交的だったが競争的であり、技術を移転した。中国は自前の工場を作るようになり、エンブラエルを締め

出した。そう、自分の工場を閉めるほどだ。ずるって？いや違う。我々の無邪気さと彼らの抜け目なきはこのようにあらゆる分野で作用するという事だ。そして今、ブラジル政府の大きな圧力により、中国はエンブラエルの飛行機を買い、国内の工場を復活させることを約束している。市場は皆に開かれている。すべてはあの「同意書」の中にある・・・

本当なのか？

ここで疑問がいくつかある。特派員クラウジア・トレヴィザンとエスタードが北京に派遣したヴェラ・ローザは、すべてがうわべのように良いわけではないことを示している。中国で飛行機を生産するためにエンブラエルは部品を輸入しなければならない。それぞれの部品に対し、現在のように中国人に指示された緩慢な官僚主義のプロセスがあるだろう。そして彼らは、彼らの産業を防衛し、彼らの市場を守ることに名だ。

エンブラエルのケースは重要だ。なぜならブラジルが中国に輸出できる唯一の付加価値をもつ製品だからだ。他の製品に対しては国内市場で中国からの侵略を妨げることができないほど競争力がないのだ。

訪問は成功だった

大統領と300人の企業家の中国訪問が成功だったことは疑いのないことだ。少なく語り、多くの結果を得る新しいブラジルの外交。しかし、約束と事実を分けることは必要だ。今はゆっくり進み、結果を得る時だ。

全ての上に立つ石油

誰もだまされてはならない。鉄鉱石の他に中国が本当に求めているのは岩塩層下の石油だ。ペトロブラスによれば、米国と中国は2、3年で岩塩層下を超える石油を消費する。

ここが危険だ。深刻な問題だ。考えてほしい、「石油は産出するところではなく、精製し、消費するところに豊かさを作り出す」ということを。中国や米国その他の国が欲しがっているのは原油である。コンピュータでコントロールされた量を産出し、自分たちの国で精製、消費するための。ペトロブラスはそのために精油所まで国外に持っている。

ジルマ・ロウセフ大統領はすでに、ブラジルに必要なのは石油ではなく、より多く石油製品を輸出することだと述べている。しかし我々の消費者もそれを望んでいる。そしてそのことは今も達成しつつあるところだ。なぜなら何十年もブラジルに精油所は建設されず、わずかに建設された精油所は、ペトロブラスがやっと（50年もかかって!!!）岩塩層下で発見した軽油を生産するためにあるものだ。

Reinvencao da industria(OESP,14/04/2011)

Celso Ming

産業の再創造

セルソ・ミング

アロイジオ・メルカダント科学技術大臣は台湾の巨大企業フォックスコンがブラジルでの電子製品組み立てを目指して5年で120億ドルの投資を行うことを発表している。

最初の情報は統制がとれておらず、意味をなしてなかった。米国で生み出され発展された半導体チップの組み立て工場で2万人の技術者が何をやるのか、誰も理解していない。単に比較すると、ブラジル自動車技術者協会（AEA）のデータによれば、ブラジル国内の全体の自動車産業における技術者は1万2千人にも達していない。また、その企業が、最低限の資格をもった労働者が不足していることが知られた労働市場の中のどこで10万人の従業員を見つけるのかもはっきりしなかった。マナウス・フリーゾーン全体でも11万を少し超える労働者がいるだけだ。

この情報の一貫性に欠けた部分から離れると、事實は、国内生産部門の非工業化と再利用化を指摘するこの産業の指導者の言葉にもかかわらず、ブラジルがこの分野で巨大な投資を受け入れているということだ。たとえば、2010年にはブラジルに外国直接投資（IED）の状況の中で送り込まれた、526億ドルの少なくとも36.8%が工業部門に入っている。

結局、強いリアル価値と法外なブラジルコストにもかかわらず、外国投資家はブラジル工業の将来に賭けている。ロブソン・アンドラーデ・ブラジル工業連盟会長（CNI）、パウロ・スカフィ・サンパウロ州工業連盟会長（FIESP）、ルイス・アウベルト・ネット・ブラジル機械設備協会会長（Abimaq）等が式典等の終わりに発する挨拶は重要ではないようだ。

先週月曜日のフォーリャ・デ・サンパウロに掲載されたインタビューの中で、ブラジル工業界最大の専門家の一人であるアントニオ・バーロス・デ・カストロは世界の生産部門で革命が起きていると述べた。国際的な取引の関係が、工業製品が最も高貴で価値あるものであることを決定し、原料とエネルギーが低い総価額として軽蔑されていたという、ドイツの経済学者ハンス・ジンガーによって50年代に描かれた時代がこれで終わった。今日ではコモディティが不足した、戦略的な産品となっている。

これはもう意味をなしていない——バーロス・デ・カストロは次のように論している:「すでに存在する産業を守り、生産のネットワークに価値が集まるのを待つことにはもう意味がない。なぜなら、もっとも進歩した技術で武装した海外の競争相手がより早くそして安く市場につくからだ。同様にアジアからブラジルへの新しく投資してくる企業等自らがブラジルの伝統的な産業を彼等の一部として統合化することにもなり得る。

「たとえ為替やブラジルコストが公正であっても、ブラジル産業の大部分は競争力がない。なぜなら中国の産業システムの方がより効果的だからだ。(ブラジル) 産業は再び創造されなければならない」

これはブラジル産業の一部がもう幾日も持たないということを意味している。潰れないためには、何らかのコストを減らす方法で処置をとるのでは足りない。産業自体が変わらなければいけない。

問題なのは、産業界の指導者が誰もこのことに気が付いていないように思えることだ。ブラジル政府も変化への道筋をさし示す準備ができていないように見えない。